

銀座通りの顔だった「東京日日新聞」。明治時代の話です！

3月2日付朝刊企画特集「時代の扉」広告 150 年秘史●企業編東京ガス「あかりから熱源へ」で尾張町1丁目1番地（現銀座5丁目）へ引っ越した「日報社」が紹介されている。

上は「派手な花ガス灯の日報社を拝む人たち 月岡芳年画」と百年史にある。

下は、銀座通りから見た日報社である。

この建物は、銀座煉瓦街最大を誇った呉服商「恵比寿屋」が倒産、450 坪余の土地ともに1万5千円で購入した。大蔵省へは3年年賦で、毎年5千円ずつ支払った。

1876（明治9）年12月31日に移転、翌77（明治10）年元日付から「東京日日新聞」を発行している。

《日報社の経営は順調に伸びていった》と百年史にある。

1か月の編集部給料＝福地源一郎 250 円、岸田吟香 100 円、塚原靖 80 円、その他 50 円給 3 人、10 円給 10 人、計 695 円。

販売収入 4200 円－諸経費（編集部給料を含め）1770 円＝利益 2430 円

《売上利益率 5 割 7 分という好採算である》（『毎日新聞百年史』）

銀座進出が 1874（明治7）年5月だったから、2年半で一等地に進出したことになる。有楽町新社屋へ移転するのが 1909（明治42）年3月。

「東京日日新聞」は明治時代の 30 年余銀座の顔だった。

（堤 哲）



本社の前身も照らされ

1880（明治13）年の東京名所図会には毎日新聞社の前身である日報社を描いた「尾張町 日々新聞日報社」があり、人力車や馬車が通るメインストリートにガス灯が描かれている。また「東京開化狂画名所」では、夜間「日報社」と浮かび上がる花ガス（イルミネーション）の描写がある。ガス灯の実物（銀座に設置されたものと同型）や錦絵、明治期のガス器具などは、東京ガスのガスミュージアム（東京都小平市）で展示されており、無料で見学できる。月曜、年末年始休館。電話042・342・1715。ホームページ<https://www.gasmuseum.jp/access/>

